

ニッポンハム食の未来財団 平成 29 年度第一期 団体活動支援助成 完了報告書

企画活動名	子どもたちとその保護者に対する食物アレルギー絵本・紙芝居・セミナー等を通じたアレルギー教育と啓発活動
フリガナ	カトウ ミナコ
申請者（代表者）氏名	加藤 美奈子
団体名（正式名称）	団体名 : ウサギクラブ子育て支援サークル 役職・肩書など: 代表

1. 活動結果要約

食物アレルギー絵本・紙芝居を1000部増版、アレルギーexpo2017で紙芝居の読み聞かせと、その様子をSNSで生ライブ発信とDVD化し、食物アレルギーセミナーを1つ主催し、出展した。全国の行政に1つずつお電話で啓発しながら配布した。今回、妊娠期の指導や、3歳児検診での栄養指導に使用していただけるように保健所、保健センターを主に交渉した。食物アレルギー教育の事業がまだ年間事業に組み込まれていないという情報が多かった。そこで今回の配布目的は、なぜやる必要があるのか動機付けできるように行った。なぜなら、第一子の子育ての新米ママたちが「知らない」ことで重篤なアナフィラキシー症状を起こしてしまったという事例を何件も直接情報収集しているからだ。また、東北はアレルギー啓発が遅れているとアレルギー患者会から聞いているので福島県、宮城県などに配布した。その結果、宮城県ではアレルギーエデュケーターが今後大きく啓発する予定でもいるので紙芝居・絵本を活用させて頂けると約束を取り付けた。また、アレルギーexpo2017での紙芝居の読み聞かせと私の7年間の啓発の話をまとめたものをDVD化し患者会などに配布したことで、食物アレルギーのことを地域に根差す方法を全国に伝える手段ができた。セミナーは、アレルギー専門医を講師にお招きし食物アレルギー発症機序について講演しアレルギーにならないための学びの時間を多くの人にできた。

2. 活動目的

目的は、食物アレルギーでない子どもや地域の方は、アレルギー情報に興味がないためその理解が進まない。そのため災害時や普段の生活においてアレルギー児の誤食による事故が起こる可能性が高い。本活動では、保健所、保健センター、児童館、教育機関、医療機関等で食物アレルギー紙芝居、絵本を配布し読み聞かせをすることで、正しい食物アレルギーに関する知識が身に付いた子どもと妊婦と地域の人を増やす環境づくりをしていくことである。また一般の人に対しても食物アレルギーセミナーを通じて正しい知識を持ってもらい、食物アレルギーを発症させない情報を提供していくことである。

意義は、食物アレルギーの子どもが教室で誤食を起こし体調の異変が出た時、自分で先生に訴えることができない低学年の場合、最初に異常の早期発見ができるのは、当事者の隣の席のアレルギーでない子どもであり、その子たちに助けられていると、食物アレルギー児の親から情報を得ている。そういう理由で周囲の子ども達の教育がとても大切である。また、第一子の子育て新米ママが、乳幼児の時期に子どもがアナフィラキシーを起こした事例が私の周囲に多く、「妊娠時に情報が欲しかった」と言われている。そのため行政機関でも母子の教育ができる保健所、保健センターのアレルギー教育指導や、子どもが集まる学校、児童館なども学べる環境づくりが必要となる。さらに、アレルギーでない子の親、一般の人にも食物アレルギー発症機序を学ぶことで避けることができるため、アレルギー専門医による学びの場を提供し予防医学を提供することが大切である。

3. 活動方法

7月：食物アレルギー絵本と紙芝居の再編集。同封する推薦状とお手紙の編集。

8月：絵本と紙芝居と推薦状とお手紙を各1000部印刷注文。絵本配布開始。

9月：絵本・紙芝居の配布先を電話、SNS（Facebook、ホームページ、ブログ）で募る。

アレルギーexpo2017のセミナー講師の依頼と内容相談。アレルギーexpo2017の出展準備。紙芝居を入れる箱のセッティング（タイトル名をピータッチで貼り、ケースを制作し1部ずつセッティング）紙芝居・絵本を配布開始。

10月：みんなのアレルギーexpo2017に出展とセミナーを1つ主催した。また紙芝居の読み聞

かせを Facebook で生ライブと収録を小春放送局に依頼し DVD100 枚を制作した。配布開始。

計画通り実施できなかったことは、紙芝居の配布開始が 8 月の事業計画だったが製本の都合上 9 月開始になった。その他の事業は予定通り実施できた。DVD 発送開始。

4. 結果及び波及効果

結果は、「勇気をもってエピペンを！」絵本配布数 800 部。「しょくもつアレルギーのこをまもるこうちゃんせいじんあらわる」紙芝居配布数 750 部。みんなのアレルギーexpo2017 での紙芝居の読み聞かせ DVD 配布数 50 枚。配布地域は北海道から長崎まで行った。配布先は以下の通りである。

北海道（札幌市保健福祉局保健所食の安全推進課・札幌市えほん図書館）宮城県（宮城県立こども病院、森川小児科アレルギー科クリニック）福島県（アレルギーっ子交流会「もぐのび」環境アレルギーアドバイザー支援ネットワークいわき、託児所キャンディ、Wendy いわき、子育てサロンみっとん、すまいるサポート Ohana(託児所)、チャイルドハウスふくまる、錦児童クラブ、福島県立平養護学校）千葉県（明海子どもクリニック、環境アレルギーアドバイザー支援ネットワーク千葉、つばきこどもクリニック）東京（東京都健康安全研究センター、調布市保健センター、中央区日本橋保健センター、台東保健所、武蔵野市子ども家庭部子ども政策課、小金井市保健センター、高円寺保健センター、荒川区保健センター、世田谷区子ども若者部保育課、子ども総合センター、板橋区 26 か所児童館、日野市館長、中央区子ども家庭支援センター、世田谷区児童課、港区児童館 6 か所、港区大型児童館 6 か所、港区学童クラブ 21 か所、港区子育て広場 9 か所、渋谷区社会福祉協議会から子育てセンター 6 か所、子育て広場 3 か所、杉並区集団給食研究会児童部会、小平市小学校 8 か所、小平市の幼稚園 1 か所、小平市の保育園 1 か所、小平市のサポートセンター、医療法人社団順正会ヒロオカクリニック、株式会社オールウエイズ、株式会社 WA・ON、NPO 法人としょかん支援クラブ、）神奈川県（環境アレルギーアドバイザー支援ネットワーク横浜支部、食物アレルギー体験レポーター岡夫婦）愛知県（一宮市図書館 5 か所、一宮市アレルギー患者会くれよん、一宮市保健センター、あいち小児保健医療総合センター、NPO 法人高齢者すまいる研究会）三重県（国立病院機構三重病院）新潟県（環境アレルギーアドバイザー支援ネットワーク魚沼市、すこや

かアレルギークリニック、南魚沼市市役所）京都府（NPO 法人ぴーちゃんネット）奈良県（なんぶ小児科アレルギー科クリニック）大阪府（LFA 食物アレルギーと共に生きる会、茨木保健所、寝屋川保健所、大阪府吹田保健センター）兵庫県（リッチョドーロ）広島県（株式会社ひつじ舎、環境アレルギーアドバイザー支援ネットワーク広島）長崎県（長崎市大浦小学校、精道三川台小学校・中学校）福岡県（環境アレルギーアドバイザー支援ネットワーク九州、ふくおか・食物アレルギー研究会、国立機構福岡病院）

配布の方法は、個人や団体、病院に配布し、そこから啓発したい対象に配布をしていく仕組みである。例えば、ふくおか・食物アレルギー研究会は、講演会で 70 人参加者が集まったので参加者に配布した。千葉県のつばきこどもクリニックは、患者や、教育委員会などに配布した。

アレルギーexpo2017 で行った、アレルギー紙芝居の読み聞かせの参加者は 10 人程であるが、DVD にしたことで、全国に配布ができた。受けとった方々の感想は次の通り。

「子ども達は基本がわかっていれば応用もできる。という部分がとても共感できました。子ども達は成長できる存在のため、私もそういう思いで関わっていたため、子ども達を知っているからこそ伝えられる内容だなあと感じました」（宮城県の小児アレルギーエデュケーター）

「動画のおかげで、読み聞かせの口調・スピード・抑揚など参考にさせて頂くことばかりで、初めて読み聞かせをする私には大変ありがたかったです。そして、この紙芝居の背景にあることを作者である加藤さんのお話を直接伺うことが出来、より一層深い深い理解が出来たと感じました。啓発をするときに怖がらせなくて良いという大切なことを教えて頂きました」（長崎県、教員でありアレルギー児の親）

「加藤さんのパワーが伝わり元気が出ました」（大阪府、アレルギー患者会代表）

10 月 10 日に実施した「みんなのアレルギーexpo2017（主催：（一社）日本環境保健機構）」でセミナー講師を千葉県のつばきこどもクリニック院長椿俊和医師をお招きし行った。テーマは「食物アレルギー発症機序についてわかってきたこと～経皮感作の重要性～」参加者は 90 人で満席だった。

小さな子どもとその親や、アレルギー団体、アレルギー罹患者、アレルギー専門家、一般人など老若男女が参加された。質問時間では、熱心アレルギー当事者の親がされた。また専門家たちは、椿医師がアレルギー罹患者を包み込む気持ちが伝わりあたたかい講演会で素晴らしかったと感想を言われた。

紙芝居、絵本、DVD、セミナー紹介のホームページには全て、協力：公益財団法人ニッポンハム食の未来財団と掲載した。

5. 今後の活動について

紙芝居、絵本の残りを確実に必要な場所に配布と、イベントなどで読み聞かせを行いアレルギーでない子どもや大人たちに継続的に啓発していく必要がある。それをする事で、知らないことを知ってもらうことができ、多くの食物アレルギー児の異変が出た場合、みんなで支えることができる。それは、災害時に一番必要なことである。

今後の活動計画は、アレルギー患者会などにどのようにしたら周囲に理解が得られる啓発ができるのかアレルギーexpo2017のDVD収録をお見せしたり、講演、SNSなどで指導とサポートを継続していく。また、アレルギー学会などに配布していき病院で患者の親の指導などに使用するアイテムとして紹介させていただく。私は、多くの人を巻き込むことができるので、医療・企業・一般の人、アレルギー罹患者とその親が1つになるようなイベントを企画し、全国化できるように活動していく所存である。

以上